

アドバンスドコミュニティヘルスインターンシップ (ACHI)

科目責任者 鈴木圭輔

学年・学期 3学年・2学期

I. 前 文

医師には患者を思いやる暖かい心としっかりした倫理観が強く求められている。

本学各病院において医療チームに加わり、その臨床現場に参加して、診療相手や関係者の心を理解し信頼関係を築く課題を学習する。医学は人の心を扱う科学であることを基本として、複雑で重要な各種医療専門職の役割と関連を理解し、チームワークの重要性を確認する。医療現場の中で人生や生活をみつめ、生活の原点にたった人間理解を医学の準備教育とする。

自らも人間性豊かな医師を求め歩む貴重な体験になることを願うものである。

II. 担当教員

各担当教員

III. 一般学習目標

- 1) 医療の原点を理解し、技術だけの医療人ではなく人間性豊かな医師としての心構えを身につける。
- 2) 最先端の医療がどのようなものであるかに接し、今後の学習に役立てる。
- 3) 医療機関を受療される方の生活背景や多様な生き方を理解する。
- 4) 医療チームを構成している多職種の役割を理解する。
- 5) あらゆる人とのコミュニケーションで大切だと考えたことは何かを学習する。
- 6) 多職種連携医療と患者中心の医療を学び、常にやさしさと思いやりをもって行動する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 臨床現場における的確な判断、人との対応、チームワークの重要性を知る。
- 2) 実習を通じ、臨機応変に行動することを知る。
- 3) 医療現場の一日の流れを理解し、可能なことは体験する。
- 4) あらゆる人と、できる限りコミュニケーションの機会をつくり対話する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	10	16	水	4	ガイダンス	鈴木圭輔	1
2		23	水		8：45 集合 8：50～ 9：00 科目責任者挨拶・身だしなみチェック 9：00～ 9：45 看護部オリエンテーション 10：00～ 16：00 看護部配属実習 16：30～ 臨床講義	鈴木圭輔 看護部長 病棟看護師 外部講師	4
3		24	木		各科配属実習	各科担当教員	4
4		25	金		各科配属実習	各科担当教員	4

VI. 注意事項

1) 全実習共通事項

- ①決められた集合時間を厳守（5分前）すること。
- ②病気等によりやむを得ず欠席する場合は必ず教務課（直通：0282-87-2419）まで連絡すること。

2) 看護部配属・各科配属実習について

- ①実習に際してはケーシースタイルの短白衣を着用すること。その際には、白衣の下には、生地を通して見えるTシャツの柄や模様や色の透ける下着は着用しない。黒，紺，グレー，ベージュの地味な綿のズボンをはき，靴下は座ってもくるぶしの見えないものを着用する。
- ②ネームプレートホルダーを持参し，学生証を中に入れる。
- ③身だしなみ（装飾品等）には注意し，髪の毛は黒～褐色の自然な色合いで，女子の長髪は束ねる。男子は長髪は禁止する。ピアスやカラーコンタクトやアクセサリは付けない。マニキュア，つけまつげ，香水はつけないで，化粧はナチュラルにする。
- ④言葉使い・態度等に十分注意を払うとともに，実習で知り得た患者情報を絶対に口外してはならない。
- ⑤指示に従って移動を速やかに行い，実習中は担当者の指示に従うこと。
- ⑥その他グループ分けなどの詳細についてはガイダンスにて指示する。
- ⑦看護部のオリエンテーション時に身だしなみが整っていないものは，実習を受けられないことがある。
- ⑧かばんは持ち歩けないので，朝集合する前に貴重品や携帯電話は予めロッカーにしまっておくこと。

VII. 評価基準（成績評価の方法・基準）

- 1) 各実習レポートの提出・実習態度・出席状況その他により評価を行う。
- 2) 実習を欠席した者，評価にて必要があると認められた者については，再実習を行う。

VIII. 質問への対応方法

- 随時，受け付ける。但し，事前に秘書を通じ，アポイントを取ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートを実習担当者に添削していただき、教務課から直接、学生に手渡し、フィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

病院学習にふさわしい、身だしなみや態度を習得しておく。

XII. コアカリ記号・番号

PR：プロフェッショナリズム（p.20～21）

CM：コミュニケーション能力（p.47～48）

IP：多職種連携能力（p.49）